



発行所 愛媛県西条市伊方町東浦
〒796-03 伊方局8-0211
伊方町 室長 公室 印刷所 豊社
八幡浜市松栢 22-0144

今月の紙面

- 二面……町議会だより
- 三面……九町診療所建設
- 四面……この人・この趣味
- 五面……故郷の思い出
- 六面……お知らせ

泳ぐの大好き



九町小学校のプールも子供たちでいっぱい。混雑をさけるため部活単位の時間割を組み、交替で開放しています。

「笑顔」いっぱい夏の夏休み

待ちに待った夏休み——。町内の小中学校では、七月二十一日からいっせいに夏休みに入りました。夏休み何するの……と聞いたところ、にっこり笑って「海水浴！」とすぐ答えが返りました。それほど海水浴は人気があります。町内のプールや海水浴場はチビっ子たちでいっぱい、歓声や水しぶきが勢いよく飛びかき、どの顔も生き生きと輝いて見えます。

二学期の始まる九月一日には、真黒に日焼けした元気な子供たちを見たものです。

常識的なことです。しかし、これが守れないために痛ましい事故が後を断ちません。出かけるとき、一人では絶対に泳ぎに行かぬ。数人の友人グループか、保護者が同伴するようにしましょう。一人では、いざというときに助けを求めることができません。溺れ、空腹、疲労は水泳の大敵。

準備体操は、自分の体調を知る一つの目安になります。体調が悪いと感じたら、無理をせず、しばらく休みましょう。準備体操の目的は、関節をほぐし、体温を高め、心臓を準備させることです。準備体操は、自分の体調を知る一つの目安になります。体調が悪いと感じたら、無理をせず、しばらく休みましょう。準備体操の目的は、関節をほぐし、体温を高め、心臓を準備させることです。

泳いでいるとき、子供の場合、一回の泳ぐ時間十五〜二十分程度が限度です。何度も水から上がって泳ぐように、長時間ダラダラと泳ぐのは禁物。子供は疲れたという自覚がありません。おとなの目から見て元気そうに見えても、一分後には急にグッタリと体調に変化をきたす場合があります。唇の色、顔の表情、話し方、態度などにじゅうぶん注意しましょう。

海水の調査、すべて「適」。夏休み前の七月五日、町内十六カ所の海で水質調査を行い、すべて「適」以上の判定を受けました。これは、国の海水浴場水質基準に基づき、大腸菌群や水素イオン濃度（PH）など七項目について調査しました。海水浴場基準に最も重要視されている大腸菌群の調査では、全く認められぬが六カ所、ほんのわずかの五カ所、そのほかも基準値を大きく下回っています。調査結果は次のとおりで、水質は心配なく安心して泳げるといえます。

水質調査結果 (調査月日：昭和57年7月5日)

場所	項目	PH (7.0が中性)	COD mg/l (低いほどよい)	大腸菌群数 MPN/100ml	判定
大	浜	8.3	1.6	8	快速
中	之	8.4	1.6	2	快速
仁	田	8.4	1.5	0	快速
津	浦	8.1	5.2	2,300	適
中	浦	8.3	1.4	240	快速
川	水	8.5	1.6	33	快速
川	水	8.4	1.6	0	快速
伊	方	8.4	1.3	0	快速
龜	浦	8.4	1.3	0	快速
龜	之	8.5	1.7	0	快速
九	二	8.4	1.3	2	快速
加	見	8.5	1.6	170	快速
加	見	8.4	1.2	0	快速
田	之	8.4	1.4	2	快速
島	津	8.5	1.2	4	快速
大	成	8.5	1.9	330	快速

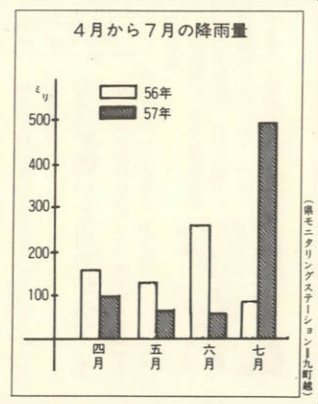
6・7月の天気、どうなってるの？ 長崎県では、三時間に三百ミリを越す異常的な集中豪雨に襲われるなど、被害は西日本全域に広がり、死者不明者三百五十人以上の大惨事となりました。町内の災害状況は道路二十七カ所、がけくずれ四カ所、河川崩壊二カ所となっています。

カラ梅雨→恵みの雨→集中豪雨

梅雨入りから七月五日までの二十三日間の降雨量は、わずか二十二ミリ、平年の五分の一程度。やっと、恵みの雨となったのは七月六日から七日にかけて。降雨量は二日間、二十五ミリ、ちよつとひと息となりました。

七月十一日から本格的な梅雨状態となり、二十五日までに三百二十ミリ。最も多かった日は二十四日で百三十三ミリ、十九日の午前二時から三時までの一時間、十三五ミリを記録しています。

長崎県では、三時間に三百ミリを越す異常的な集中豪雨に襲われるなど、被害は西日本全域に広がり、死者不明者三百五十人以上の大惨事となりました。町内の災害状況は道路二十七カ所、がけくずれ四カ所、河川崩壊二カ所となっています。



各会計の予算状況

一般会計	+7億4,625万円	38億8,272万円
特別会計		
国民健康保険会計		
事業勘定	+ 3,038万円	5億9,675万円
直営診療所施設勘定	+2億6,055万円	2億6,941万円
水道事業会計	—	1億5,709万円
学校給食会計	—	4,485万円
住宅新築資金貸付事業会計	—	2,655万円
港湾整備事業会計	—	408万円
合計		49億7,145万円

西久保集会所建設を計画
鉄筋コンクリート造り3階建

【総務費】

町見駐在所周辺整備 190万円
西久保集会所建設設計調査委託料 111万円
(鉄筋コンクリート造り3階建・延200㎡を計画)

【民生費】

国民健康保険特別会計繰出 3,447万円
湊浦二下水道整備(110m) 267万円
豊之浦保育所維持補修 +178万円
このほか、ゲートボール用具購入費なども予算化されています。

【衛生費】

西簡易下水道整備(70m) 519万円
亀浦簡易下水道整備(90m) 213万円
伊方越簡易下水道整備(100m) 190万円
畑簡易下水道整備(70m) 519万円
川永田簡易下水道整備(136m) 521万円

【農林水産業費】

カラ梅雨干害対策調査費 33万円
湊浦養豚団地整備 +1,713万円
九町中央接続農道整備 +5,000万円
豊之浦漁港修築 +2,500万円
鳥津漁港浚せつ 1,980万円
大成漁港浚せつ 740万円
田の浦漁港舟揚場改良 480万円
九町漁港海岸保全 +2,000万円
大成漁港海岸保全 1,080万円
このほか、大成・鳥津・九町漁港に水銀灯。無線技師講習会補助金なども予算化されました。

向小集落改良住宅も

【土木費】

道路維持費 +353万円
町道河内河北線舗装 1,800万円
町道湊浦伊方越線舗装 260万円
町道九町九町越線改良 985万円

山下さん再任

固定資産評価審査委員
固定資産評価審査委員会の委員の選任について
任期満了に伴う固定資産評価審査委員の再任が決定しました。

山下さん再任

今回の補正予算額は、豊之浦小学校体育館の新築費など歳入歳出それぞれ七億四千六百二十五万円追加され、総額三千八百八十二万七千七百七十一円となりました。使ってお金の主なものは左欄で紹介しています。

伊方港改修

+4,200万円
向小集落地区改良住宅設計監理委託料 522万円
向小集落地区改良住宅新築費 1億3,660万円
(コンクリートブロック造りで8戸分新築)

【消防費】

奥地区送水施設新設 300万円
定置配管4カ所など小規模消防施設整備 132万円
13分団(向)小型動力ポンプ購入費 104万円

まづ豊小体育館

8月竣工
来年2月完成

【教育費】

豊之浦小学校及び有寿来小学校体育館設計監理委託料 +256万円
豊之浦小学校体育館新築工事 8,900万円
豊之浦小学校体育館備品購入費 100万円
町見公民館等周辺整備 1,300万円
豊之浦小学校体育館へ、鉄筋コンクリート造り平家建、504㎡。8月着工で来年2月完成予定です。

第109回定例会町議会が、七月二十七日に招集され、会期二日間で開催されました。
今回の定例会では、固定資産評価審査委員会委員の選任、昭和五十六年度水道事業会計決算の認定など、十一議案が上程され、審議の結果全議案が可決承認されました。
また、陳情・請願四件が提出され、いずれも産業建設委員会へ負託。今後同委員会で調査審議されることになりました。



豊之浦小・有寿来小に体育館
七億円追加し総額三十八億円に

陳情・請願
塩専売制度存続に関する請願
(五本橋・河内)及び周辺の町道改修に関する請願
(町道鳥津九町線の新設の陳情
(四田の浦農道新設の陳情
このほか定例会で可決承認された主なものは次のとおりです。



第109回定例会で招集あいさつをする福田町長。このあと補正予算などの審議が行われました。

いよいよスタート
九町診療所の建設

昭和三十七年度国民健康保険特別会計補正予算(第二号)事業勘定
歳入歳出それぞれ三千三十八万円追加され、総額五億九千六百七十五万円になりました。
直営診療所施設勘定
九町診療所を建設するために今年度から設けられたもので、今年度さらに歳入歳出それぞれ二億六千五百五十万円追加され、総額二億六千九百四十一万円になりました。

水産
単年度百四十六万円
七年連続の黒字

昭和三十六年度の水産事業会計決算書の認定
昭和三十六年度の水産事業会計の決算が認定されました。これをみると、営業収益が六千四百四十四万円に対し、営業費用は五千七百六十二万円、差額は八百七十八万円が営業利益となりました。

しかし、営業外収支で二百三十六万円不足していますので、これを差し引きますと五十六年度単年度での黒字は百四十六万円になります。

人権コーナー
考えよう相手の立場とその気持ち

【審査・発表及び表彰】
一、応募論文は審査委員会を設け審査します。
二、審査のうえ入選作品数を決定します。
三、入選者に対しては、人権週間(十二月月上旬)に表彰を行い、賞状及び記念品を贈ります。
【その他】
入選論文は「人権募集」に集録し、各家庭に配付して人権思想啓発に役立てます。詳しくは、役場総務課へおたずねください。

燃費節約につながる
「消エネ整備」
点火プラグ
火花が弱いと出力が低下
火花が弱いと不完全燃焼を起し、その結果、出力が低下して燃料をよけいに使うことになってしまいます。こまめに点検しましょう。

論文募集
十月三十日まで
に役場総務課へ
【趣旨】
人権の共存すなわち、お互いの立場を考慮して豊かな人間関係をつくらうの主旨で、その思想と意識を普及するため、町内の成人を対象に人権に関する論文を募集します。
【応募資格】
町内在住者で二十歳以上の男女
【作品の基準】
一、趣旨に適合した内容で
二、未発表の作品であること
三、応募論文は一人一点とします。
四、論文は四百字詰原稿用紙五枚以内で縦書きとし、末尾に住所・氏名・性別・年齢・職業を明記すること。
五、送付先は役場総務課内
六、人権に関する論文に係る【締め切り】
昭和五十七年十月三十日(当日消印有効)
【審査・発表及び表彰】
一、応募論文は審査委員会を設け審査します。
二、審査のうえ入選作品数を決定します。
三、入選者に対しては、人権週間(十二月月上旬)に表彰を行い、賞状及び記念品を贈ります。
【その他】
入選論文は「人権募集」に集録し、各家庭に配付して人権思想啓発に役立てます。詳しくは、役場総務課へおたずねください。

九町診療所は三階建

来年四月の開業めざす

九町地区に待望の診療所が建設されます。これまで、同地区(四百九十六世帯、一千三百二十五人)には、地元出身の井田医師が医院を開業、長年にわたり地域医療向上のために献身的な活動をしてきた。町では、昭和五十六年十二月に九町六部落からそれぞれ陳情を受けると、地元の強い要望

で、井田医師も現在八十歳のご高齢で、今年三月一日から休診中です。町では、昭和三十七年四月に建設計画を開始、今年四月に運営について地元医師や八幡浜医師会のご理解と協力を得、建設の運びとなりました。



完成予想図・日当たりが良いように南向きに設計され、写真に向かって左側に20台収容の駐車場、その横あたりに庭園が続きます。

一階に内・外科の診療室 手術室は二階・病室は三階に

九町診療所の建設概要は、鉄筋コンクリート造り三階建て、延床面積が八百九十七平方メートル、工費は医師住宅も含めると一億八千九百四十二万円です。

病室は、二部屋九室(各十五平方メートル)、一部屋一室(十平方メートル)で合わせて十室。ベッド数は十九床です。この九町診療所は八月に着工し、来年二月には完了します。計画どおり進めば完成後約一カ月の準備期間のあと、四月には開業できる見込みです。

当面の課題は医師確保

診療所建設工事に伴う進入路の新設や医療器具などの選定も着々と進んでいます。今一番の課題は、医師確保の問題です。施設の規模などからみると最低二人の医師が必要ですが、当面一人の医師を確保してスタートする予定です。現在地元医師を通じて八幡浜医師会にご協力をお願いし、確保に全力をあげています。

医師住宅も新築

二階には、手術室、医師室、看護婦室などを設けています。手術室の広さは二十平方メートル

町ではこれまで、施設提供をしている二の歯科診療所、昭和五十四年に県下のトップを

九町診療所の建設と合わせ、九町中央接続農道の新設工事も急ピッチで行われています。

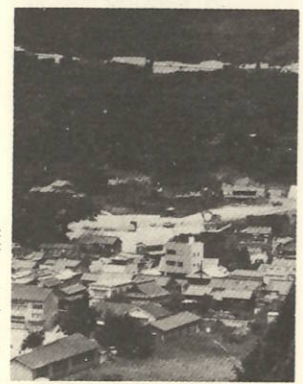
この農道は、国道一九七号線の旧町見支所跡から九町診療所を通り、町見中央農道を結ぶおよそ八百五メートル、道路の幅員は九町診療所までが五メートル、九町診療所から町見中央農道までの間が四メートルです。

接続農道も急ピッチ

全線の完成は来年三月末日の予定。一定期間をおき路面舗装も計画しています。現在の工事状況は、国道一九七号線から町見中央農道の両方が進められており、七月末現在の進捗率は七〇パーセント。

ずっと近く便利に

下は短縮されます。今よりもっと近く、便利になるだけです。工事中は「迷惑」を皆さんにはいたへん迷惑をおかけしていただきます。工事中は最善の注意をしていますが、ご協力をお願い申し上げます。特に大型車などの通行が増えますので、注意ください。



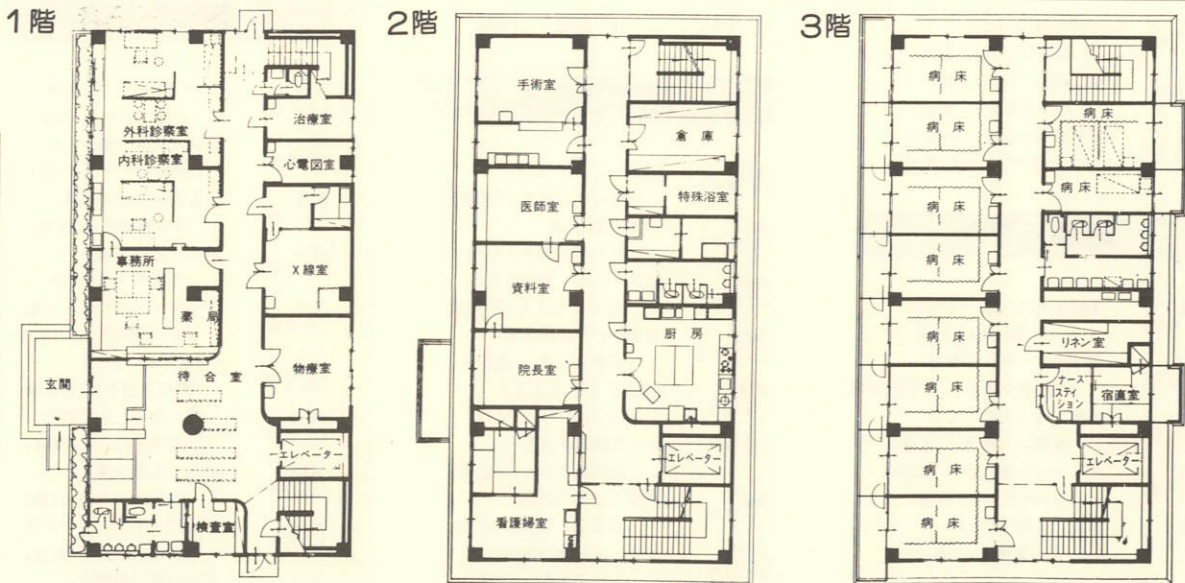
上部の白く見えるのが町見中央農道。写真中央あたりに診療所を建設します。

種別	施設	九町診療所	医師住宅
構造		鉄筋コンクリート造り3階建	鉄筋コンクリート造り2階建
主な施設		冷暖房・エレベーター1基	冷暖房(一部)
床面積	1階	288㎡ (87.12坪)	84.83㎡ (25.66坪)
	2階	288㎡ (87.12坪)	54.15㎡ (16.38坪)
	3階	288㎡ (87.12坪)	—
積算	塔屋	33㎡ (9.98坪)	—
	計	897㎡ (271.34坪)	138.98㎡ (42.02坪)

西側に駐車場 二十台収容

九町診療所の建設場所は、四月の広報でもお知らせしたように、九町の町並みが一望できる久保地区の高台(旧兵頭守治吉さん宅跡地)です。診療所建物の西側には普通乗用車が二十台収容できる駐車場を、道路をはさんだ南側に医師住宅を新築します。

九町診療所平面図



趣味紹介シリーズ

▽▽▽▽

町民の皆さんに登場していただく「この人、この趣味」のコーナーも、今回で三十一人め。
 そろそろ……と言ふ声も聞かれるとともに、情報もそろそろ——
 になってしまいました。登場していただいた三十一人、三カ年をふり返って見ることにしました。

三カ年で三十一人紹介

△△△△

このコーナーがスタートしたのは昭和五十四年七月。第一回は鳥津清士さんの「竹細工づくり」を紹介いたしました。
 当初は、「像」「石印」「盆栽」など、いわゆる物を作る方々を中心に取材が続けられました。
 その後、取集や楽器演奏、スポーツなど日常楽しみにおられることすべてに拡大。カメラを片手に西へ東へと走り回りました。
 中には、二つも三つも趣味を持たれ、どれをう紹介してよいやら頭をかかえたこともありましたが、また、情報がなく困っているところへ「あそこのおばあちゃん何々しますよ」と教えていただいたことを思い出しています。
 内心いつまで続くことかと。はらはら。しているのが正直なところ。すばらしい趣味をうまく紹介できなかったことをおまび申し上げます。

みなさんのご協力で こんなに続きました

こんな風に続きました

3カ年のあゆみ

昭和54年

- №1 (7月号) 竹細工づくり 鳥津清士さん(鳥津)
- №2 (8月号) 像づくり10年 兵頭寛一さん(川永田)
- №3 (9月号) 石印づくり 野田諦忍さん(西)
- №4 (10月号) 「盆栽」づくり50年 土井政治さん(河内)
- №5 (12月号) 91歳で「まり」づくり 久保タヨさん(大成)

昭和55年

- №6 (1月号) 「カメラ」とともに40年 三浦 勲さん(湊浦)
- №7 (2月号) 端切れ利用で傑作人形 畑山シゲヨさん(畑)
- №8 (3月号) 一万点の郷土がん具 中原峰郎さん(湊浦)
- №9 (4月号) 尺八を始めて40年 田丸久一さん(奥)
- №10 (5月号) アイディアおじいちゃん 吉川茂氏さん(川永田)
- №11 (6月号) 「ちぎり絵」づくり 樫尾久恵さん(田之浦)
- №12 (7月号) 一瞬の手ごたえに魅力 武田庄松さん(湊浦)
- №13 (8月号) 俳句で人生を楽しく 城岡サカエさん(奥)
- №14 (9月号) 五ッ鹿・牛鬼の面づくり 袋口清政さん(大浜)
- №15 吟詠は私の健康法

昭和56年

- №16 (1月号) 65歳でトランペット 西川惣五郎さん(中浦)
- №17 (2月号) 観葉植物250鉢 山口軍兵衛さん(畑)
- №18 (3月号) 枯れ木に咲く可憐な花 畑中イセさん(川永田)
- №19 (4月号) 日記がわりに部落史 清家宗一さん(亀浦)
- №20 (5月号) □□□□□□□□ ○○○○○(△△△)
- №21 (6月号) レース編みが楽しみ 山岡光子さん(田之浦)
- №22 (7月号) 貝細工で鳥の置物 内之宮 宝さん(河内)
- №23 (8月号) 子供たちと「剣道教室」 田中光顕さん(湊浦)

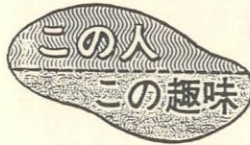
昭和57年

- №26 (1月号) 夫婦ともにスポーツの虫 山口幸由さん(久保)
- №27 (2月号) 親子でアマチュア無線 三好高弘さん・浩司君(湊浦)
- №28 (3月号) 布地を使って花づくり 藤岡シズヲさん(大成)
- №29 (4月号) キューピーさんがいっぱい 宮内初子さん(亀浦)
- №30 (5月号) 竹製の花器で「金賞」 松田愛蔵さん(河内)



毎回楽しみ できれば長く 鳥津清士さん(鳥津)

この人、この趣味の企画の最初に紹介いただいたことを光栄に思っています。
 毎回来しみに読ませていただいています。もう三年になると聞いて驚いています。町内にもいろいろな趣味を楽しんでいる方がたくさんおられ、とても感心しました。
 私は、自己流で「竹細工」や「ミニぞうり」などを作っています。
 今は細仕事に追われてあまりできませんが、暇を見つけては花飾の「うすばた」を竹で作ってみたいと思っています。
 やはり、何か目標みたいなものがあると楽しいものです。できれば、こうしたコーナーを長く続けてほしいと願っています。



№31

五年がかりで四トの船

吉本三男さん(小中浦)

プラモデルで「豪華船」や「飛行機」などを作った経験をお持ちの方は多いと思います。大きな形は別として、小さくても作ることができ、自分でおもしろいこととすれば、なおさら楽しいことうけあい。
 今年紹介する小中浦の吉本三男さん(四十一歳)は、好きだった模型づくりが転じ、五年がかりで全長九五メートルの四トンもあるプラスチック製のモーターボートを製作。この春には、小型船舶検査にも合格した。仕事は造船関係。ところが、本職は長距離トラックの運転手さん。
 トラックとモーターボートの奇妙な結びつき。以前から船舶関係の雑誌を見ているうちに、自分で自分の船を作りたくなくなった。製作費はおよそ二百万円。半分は自分の小使いとおつて船への愛着も人一倍。休日にはほとんど船といっしょだそうです。
 吉本さん自身のこの船びまわりと名付けられ、マリンエンジンの百二十馬力を搭載。二十五ノット(時速約四十五キロメートル)で走る。
 つい先日、三崎通いの高連艇と肩を並べて走ったが、「資金と時間の余裕があれば、もう少し大きい船を作り、日本一周」と吉本さんの夢は広がる。



手づくりの船と吉本さん。手入りに余念がない。

げました。
 わからなくなると知人に聞いたり、造船所へ足を運んだこともたびたび。仕事の関係で月に十日間くらい、休日があつたのが幸いで、昨年の十一月に完成。作業開始から実に五年がかりの大事業です。

- №23 (9月号) 82歳で機(ハタ)織り 道元力子さん(鳥津)
- №24 (11月号) 100種類の「椿」を栽培 藤井民生さん(湊浦)
- №25 (12月号) 部屋全体がまるで花畑 安部マツエさん(亀浦)

水 生命の源を大切にしていますか

水が私たちの暮らしに欠かせないたいせつな、生命の源であることは、今さら言うまでもありません。

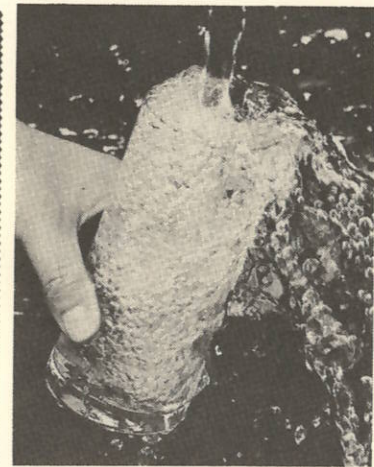
水道の水が止まったら、家庭で、学校で—私たちの生活はいたるところで往住生まします。ところが、こうした水のたいせつさを、見過ごしてしまいませんか。

つぎを頭では理解していても、ふだんの生活ではまだまだムダに水を使っていることが少なくありません。

八月一日は「水の日」、この日から一週間は「水の週間」です。

夏場は一年のうちでも最も水を多く使う時期です。いまだ、暮らしの中の水のたいせつさを見直しましょう。

一日平均二千二百トン 十年前の二倍以上



本町の水道施設状況は現在、湊浦を中心とした伊方上水道、九町と豊之浦を含めた九町地区簡易水道など、五つの施設があります。(下表参照)

今年六月末現在の給水人口が六千八百二十九人、二十一年間に二倍以上に増えています。毎日、家庭や学校

などで利用していただいています。こうした町水道利用の皆さんが一日に使う水の量は、今年六月平均で二千二百一十トンです。昭和四十六年度末の一日平均が一十トンあまりですから、二十一年間に二倍以上に増えています。半島部特有の平地の少ない地形で、大きな河川もない本町は決して水資源に恵まれているとはいえません。つまり、現状の水確保がせいぜいといった状態です。

町水道施設状況 (昭和57年6月末現在)

区分	給水人口	1日当り平均配水量
伊方上水道	3,770人	1,065t
有寿地区簡易水道	1,300人	539t
九町地区簡易水道	1,811人	472t
二見地区簡易水道	185人	42t
亀ヶ池地区簡易水道	712人	103t
計	6,829人	2,221t

故郷の思い出

題字 福田直吉伊方町長

毎年春祭りになると、部落の相撲大会が公民館前で行われていた。

前座として五、六歳くらいから始まり、小中学生、最後は青年団の人たちによる五人抜きや三人抜きで締めくくっていた。

そのころは、現在のようにはレクリエーション活動も盛んでなく、相撲が唯一のスポーツとしてお年寄りの人たちにも喜ばれていたように思う。

私は、六歳の時三人抜きをして、ボクテ、をもらった思い出がある。自信というものは、こわいもので、それ以来、強い男に憧(あこ)



憧れだった青年相撲

あこが 篠沢万盛さん(松山市在住=川永田出身)



5月9日、湊浦の八幡神社境内で行われたすもう大会。今年9チームが参加し、有寿来青年団が優勝しました。

節、だけは注意し、勝っておかず、敗れた相手に敬意を表し、常に謙虚な姿勢を心がけていた。

幸い、足腰の鍛錬と試合度胸はついていたので、部落の団体優勝に貢献でき、個人でも二位を獲得したのである。

中学校卒業以来、大人として初めて部落に姿を出し、しかも名譽ある賞に輝き、少なからずとも親孝行の一端を果たした気持ちも生じ、今でもそのときの興奮は忘れられないものである。

それ以来、部落の皆さんとの顔つきができて、また、友人関係も広く深くなりました。私の人生観も多少変わったように思います。

最後に、強く清くたくましい子供の育成のためにも、伝統ある伊方相撲のますますの発展を願ってやみません。

特に今月十四日の「旧盆」前後には、毎年使用水量が倍増するため、最悪の場合は夜間断水が予想されます。

次に今月に注意し、限りある水資源を大切に使いましょう。

一、「ポット」落ちる水も一時間にリットル、蛇口はこまめにしめましょう。

二、流しはなしての「歯みが

歳時記

怪談 ばなし

三、洗車は、バケツなどに水をくんで行いましょう。

四、ふろの残り湯は「洗たく、まき水」など有効に使いましょ

「木も眠る丑二時、雨のそぼ降る柳の蔭に、足元のおぼろげな女の姿がスーッと現われていった調子の怪談は、夏特有的な気分が涼しさを味わおうというわけですが、どうも現代っ子にはピンとこないようです。

映画や映画とときついでに慣れているせいもあり、また最近では、家の構造も変わって、夜中に家の外の暗いトイレに行くこともなくなつたせいでしょう。



怪談は、昔から説話文学などの形で伝えられてきましたが、講談や芝居で怪談が盛んになったのは江戸時代になってから。乾坤坊良齋が自作自演した「四谷怪談」、三遊亭円朝の「牡丹灯籠」などが特に知られています。

また、江戸時代には町人たちが



毎月7日に行われる定例会。会員の作品を持ち寄り意見交換をしています

グループ紹介 ①

伊方町盆栽趣味の会

八日から二日間、「さつき展」を開催。また、五月から役場一階ホールに盆栽の展示を始めました。(写真左)

この展示、少なくとも向う一カ年は続ける予定。会員の方々が丹精込めて育てた作品を持ち寄り展示しているものです。一点四、五日間程度とし、大浜から順次当番制で実施。

今月は小中浦、来月は川永田の会員の方が展示する予定です。

盆栽を見て腹の立つ人は、まずいらない。朝チヨット早起きし、水もかけながら心落ち着ける時間を取り、ゆとりをもって仕事に出かけられてはいかかでしょうか。

- 役員さん紹介
- 会長 篠川 万衛 (川永田)
 - 副会長 松田 久雄 (湊浦)
 - 副会長 大通 孝行 (小中浦)
 - 監事 梶田 忠義 (湊浦)
 - 監事 菊池 祐善 (川永田)

●作業一ロメモ

七月から八月上旬にかけての手入れは、ケキキヤカエテ、モミジなどの葉かき時期を落とす。新芽を出さるようにする。葉の落ちは、新芽が出るまで、新緑が一年に二回楽しめること秋の紅葉がより美しくなります。



活動状況は月一回の定例会、展示会を年二回、先進地見学、昨年奥道後(五十八人参加)一回など多彩な活動を行っています。

十年めの今年は、記念行事として五月二十

